

# MJ WWWT PROJECT

MJWWWTの軌跡  
1992年12月22日～12月31日

1992年12月。  
MJは一人の日本人アーティストに  
8つのメッセージを残した。

**MJWWWT プロジェクト**

1992年12月22日 東京のあるホテルにて。

「僕は君と会うまでの半年間。MJWWTという世界の貧しい子供たちを解放する  
アミューズメント施設を考えて来た。

この頭にあるその空間を10日間で描きあげて欲しいんだ。」

MJは日本人アーティスト、KENJI KOGAに託しました。

そのコンセプト画の名前は

「Michael Jackson Wonder World Toys (マイケル・ジャクソンの不思議なおもちゃ箱)」。

MJはKENJI KOGAと約10日間、自分のコンセプトを熱く語りながら  
自らの手で1枚のスケッチを描いたのです。

まるで少年が言葉でつくせない思いを絵で説明するかのよう楽しげに。

それも各部分に詳細な説明をしながら…。

MJの死後、彼が描いた画から、彼が真に祈り、

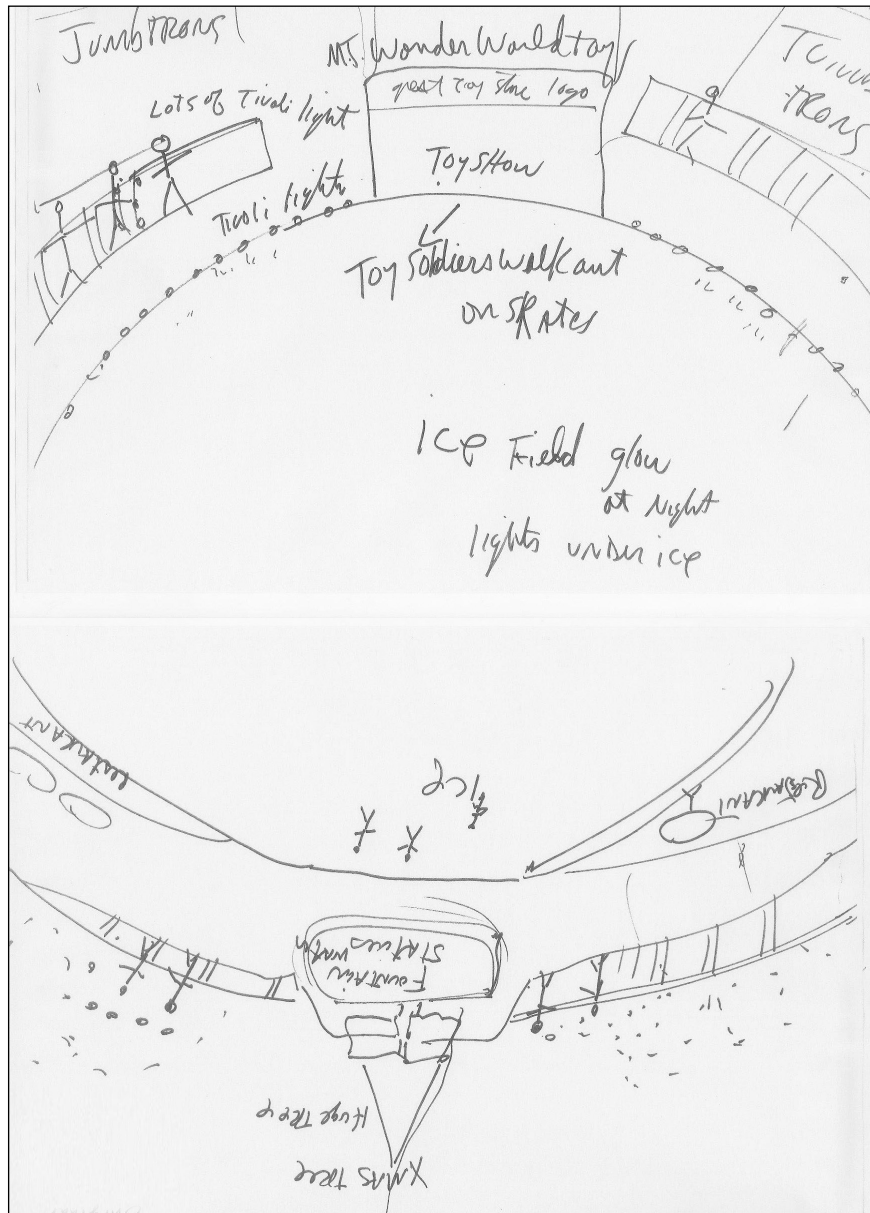
世界中に伝えたかったメッセージが浮かび上がってきました。

いかにMJが人類と地球を愛していたか。

そして誰もが平和で幸福に暮らせるための環境の改善を祈っていたかが。

※文中の「」の中の言葉はすべてMJが、絵をかきながら語った言葉です。

<MJの遺作/MJWWTコンセプト画>



1992年12月25日クリスマスイブの夜午前2時頃、MJ自ら描いたコンセプト画。説明をしながら、約1時間ぐらいかけて描き上げた。

<MJが選んだMJWWTのための作画資料>



MJWWTのコンセプト画を描くために  
書店にてMJとともに作画資料の本を多数購入。  
その中からMJ自身が選んだ資料。

<MJWWT・KENJI作品1>



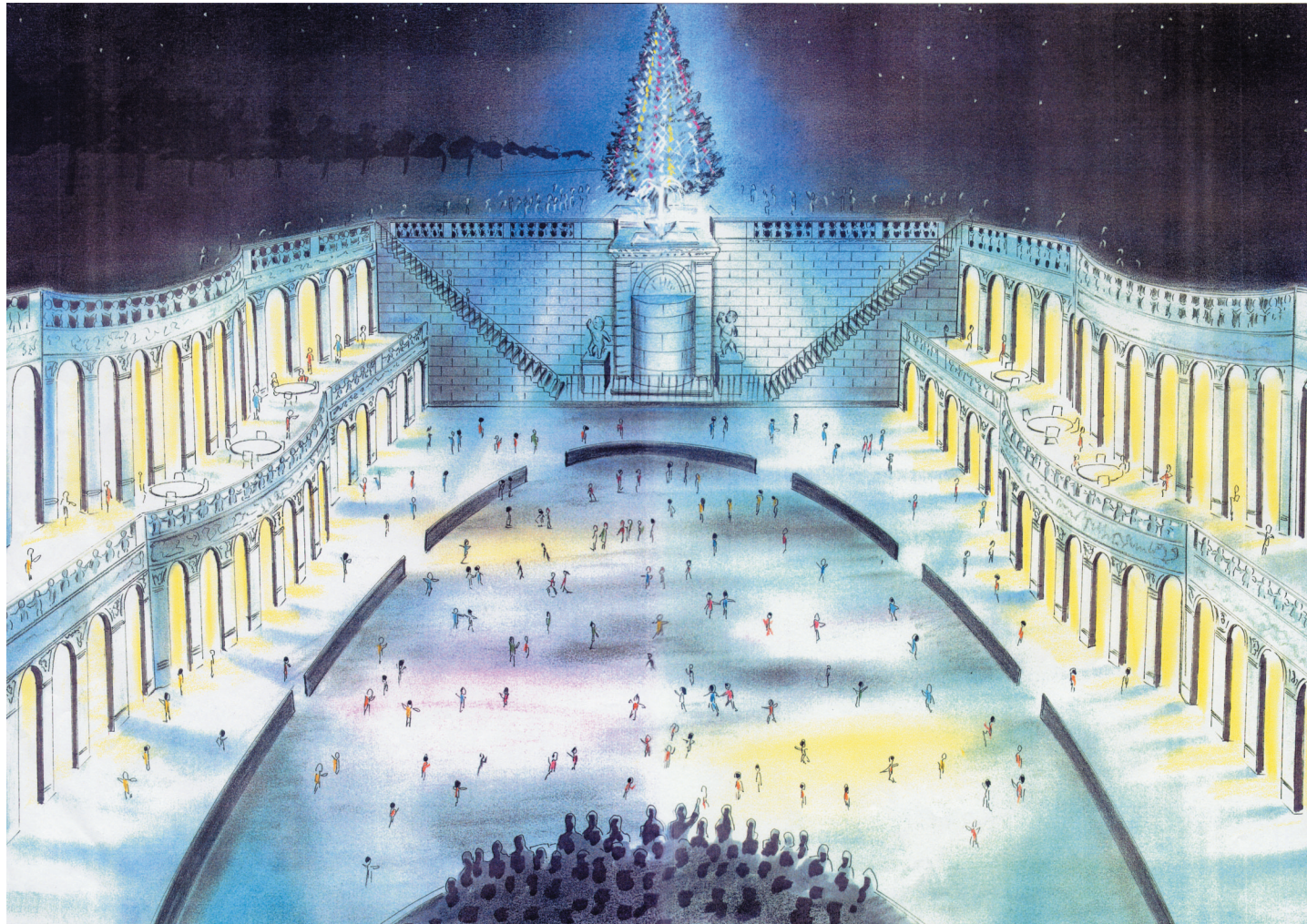
MJがこだわった「MJWWT」のロゴが扉にあしらってある。ロゴはKenjiのオリジナル。この扉が開いて毎晩世界のいろんなショーが繰り広げられることを楽しみにしていた。ゲートの周りの装飾は別紙にあるMJが選んだバロック建築の装飾を参照にした。門扉の中央にMJが溺愛していた「バプルス」が描かれている。「僕のトイレをバプルスは使っていたんだよ!」と笑顔で思い出話を話してくれた。ゲートの両サイドにはソニーが開発した「ジャンボトロン」が色々な動物たちを映し出す。「ここには絶対にジャンボトロンが必要だよ」との要望で描き足した。MJは当時、ソニーの盛田会長を尊敬していたのもその要因か？

<MJWWT・KENJI作品2>



満点の星空に無数の花火が打ち上げられている。そして中央には渾然と輝くクリスマスツリーと像の台座に設置された噴水。「このアイススケートリンクは夜になると光で浮かび上がる。小さな光が無数に輝き、光の世界になる。花火はたくさん打ち上げて欲しい。スケートリンクの下からはロゴが浮かび上がるアイデアはどうだろう?」と指示していた。MJは何故かクリスマスツリーと噴水。それに花火に強くこだわっていた。

<MJWWT・KENJI作品3>



MJはゴシック風の石組みに強くこだわっていた。その確認のための作品。噴水のデザインには特にこだわっていた。噴水の両サイドに設置した天使はMJの指示。食事を楽しみながらスケートリンクを見下ろせるようになっていた。

<MJWWT・KENJI作品5>



「スケートリンクで滑る先頭にはいろんな国の子供たちを描いて欲しい。そして大切なのは満月。それも大きな満月が欲しい」。MJのムーンウォークというネーミングとの関連性もうなずける。MJWWTでの月の存在を強く主張していたその背景には、自分のコンセプトと月の存在が絡んでいたと思う。



## MJからのメッセージ 01



### 「一年中光を絶やさない クリスマスツリーを描いて欲しい」

もみの木は天上にまっすぐにそびえ立ち、冬でも枯れない常緑樹として、  
古代から神が宿る木、永遠の命のシンボルとして崇められてきた。

MJはもみの木を地球の永遠のシンボルに見立てた。

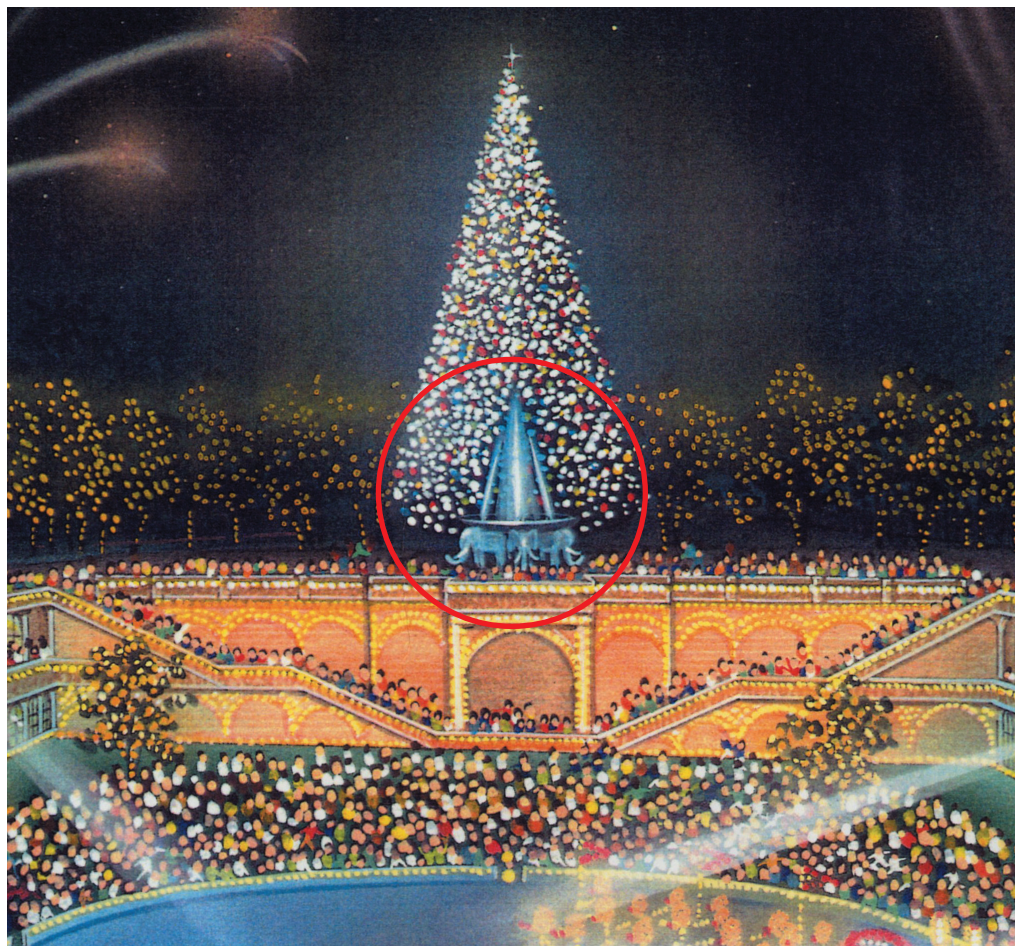
一年中光を絶やさないでのMJの想いは、

世界中の人々に環境破壊をやめて木々に星を飾ろうという提案ではなかったか。

神が宿る神聖なモミの木が一年中光を絶やさないことは、

木々に光を燈す人々の祈りの象徴と大自然の恵みを受けて

育まれる豊かな大地の姿そのものです。



### 「クリスマスツリーの下には 噴水が必ず必要だ」

水は命の根源。地球上のすべての命の根源である。

MJにとって、噴水は命の根源である水の豊かさの象徴であり、文明のバロメーター。

古代から噴水のある場所そのまま、世界中の人々の豊かさの象徴である。

天災・人災によって荒らされた現代の世界では、

地球の恵みともいえる清らかな水を手に入れることすら難しく、金銭で売買されている。

MJがWWTに大きな噴水を設置することを強調したのは、本来の地球と人間のあり方。

豊かな大地と潤沢な水源は地球生命の幸福の条件を伝えている。

## MJからのメッセージ 03



### 「満点の夜空には満月を描いて欲しい」

MJは満月に何を託そうとしたのか？月は日々姿を変えるが、その満ち欠けの30日のサイクルを永遠に繰り返す。その意味で月は古来より不老不死、永遠の命の象徴だった。月がもたらす潮の満ち引きは人の生死を司る。毎月訪れる約束された満月のもっとも満ち足りた時を意味する。満月が生命エネルギーを活性化させる源とMJは知っていた。満月はMJがすべての人々の心身の健全であることへの祈りだった。

## MJからのメッセージ 04



### 「ここのスケートリンクでは 世界中の子供たちが滑る」

先頭を滑走する子供たちはまず黒人の子供たち。

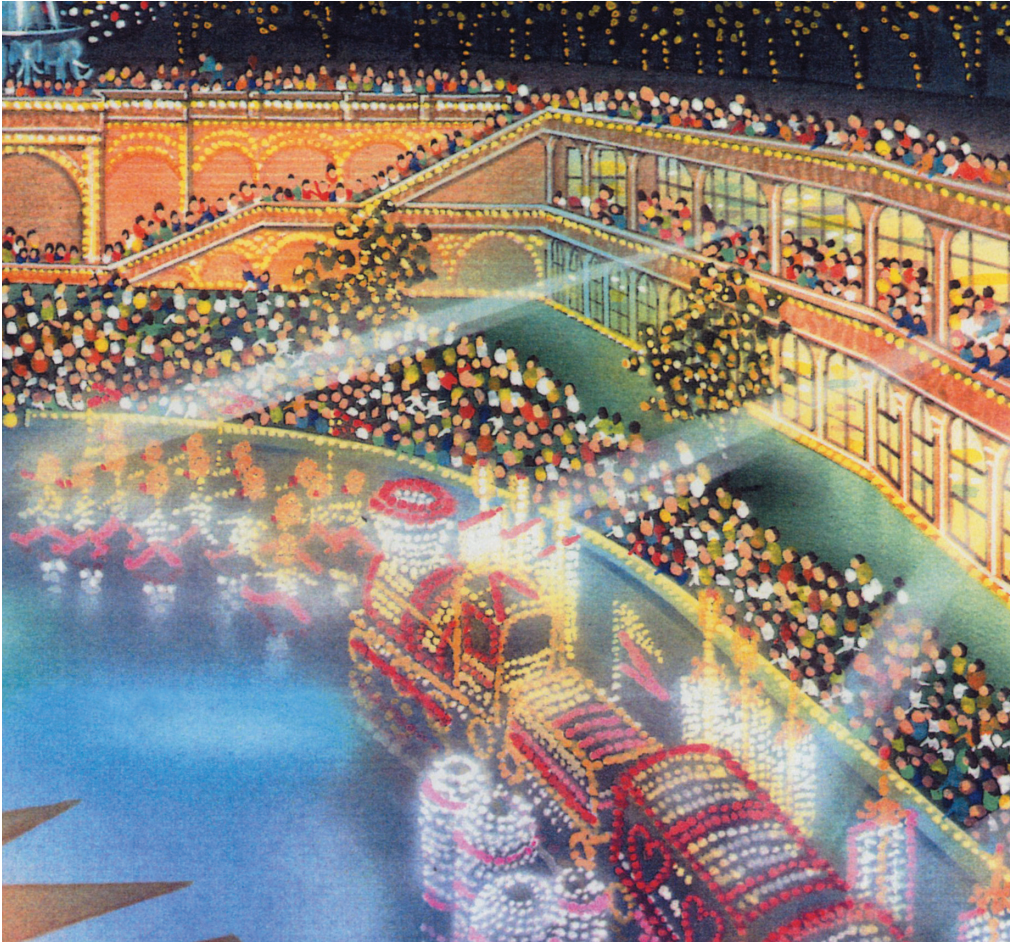
そしてアジアの子供たちを描いて欲しい。と注意深く繰り返していたMJ。

それは人種差別意識のむなしさや愚かさ、そしてそのための起こる悲劇を知るMJからの警告。

氷上ではスケート靴が必要。それは誰でもが一つの条件のもとで平等である証。

国境も人種もすべての差別を超えて。

## MJからのメッセージ 05



### 「とにかく光の世界にしたい 無数の光で包まれた世界に」

MJがとにかく光にこだわった理由は？

それは闇（環境破壊・地球上のすべてのマイナス要素）に対する反発。

光は善。光は地球上の生物の誕生・育成のために必要不可欠な条件。

大地・水・光がそろって初めて人間は命を産み、維持できる。

幼いころからショービジネスの世界に身を置いていたMJにとって、スポットライトではなく、

愛に裏打ちされた光こそが人を神に近づけることを知っていた。

WWTを無数の光で包むことで、人間本来の純粋な魂を育み守りたかった。



### 「夜空に無数の花火が 打ち上げられるんだ」

闇（地球上のすべての悪）に打ち上げられる無数の花火は闇を拒否するシンボル、  
例えば戦争・紛争に対する警鐘。環境破壊を止める合図。

人々の絶望を救う希望。あらゆる不幸に哭いた人々や過去に犯した人類の過ちへの鎮魂。  
銃器に変わる花火の美しさとマイナスを跳ね飛ばす爆音。

ここMJWWTには、人々を恐怖に落とし込める無作為で無法な世界は存在しない。

優しい夜空に美しく咲く光の芸術は人の心に忍び寄る闇を退治する。



### 「毎日繰り広げられるアトラクションの メインはオモチャの兵隊のパレードだ」

世界のおびただしい紛争・市民戦争。それから生まれる多くの難民。

MJは生涯をかけて難民、避難民、貧困に苦しむ人々に手を差し伸べてきた。

国際紛争および難民問題についての怒りと悲しみにあふれたていた

MJの厳しい口調と眼差しは今も鮮明に蘇ってくる。

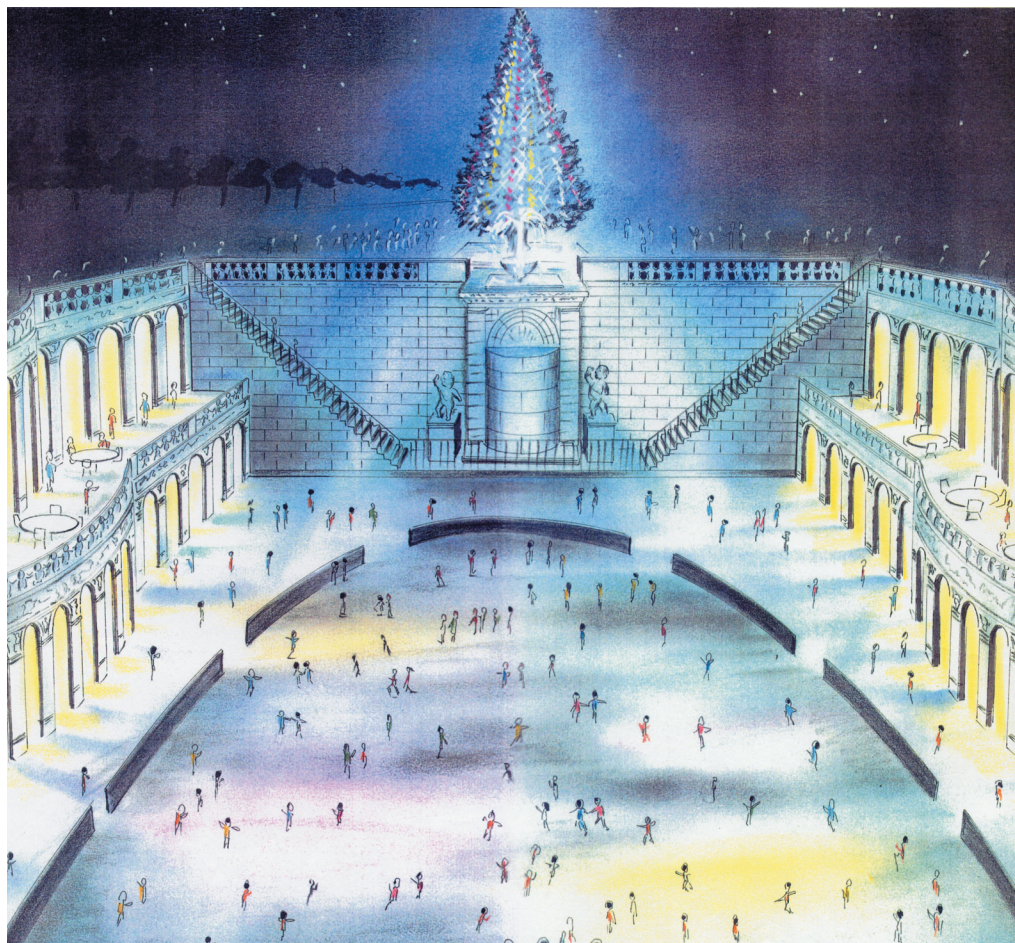
MJが「まずオモチャの兵隊達が先頭にパレードが始まる。それは毎日繰り広げられる。」

その真の意味は戦場でおびただしいヒトが死ぬ。

そして環境汚染で多くのヒトが苦しむことへの心象的なシンボルとして

オモチャの兵隊のパレードを要求していた。

## MJからのメッセージ 08



### 「ここには一年中クリスマスが存在する」

クリスマスは世界が平和を感じる唯一共通の日である。

宗教によって各国の正月は異なるが、クリスマスは共通言語であり、12月25日をその日として認知し、クリスマスソングは宗教とは関係なく世界の人々に愛され平和な時間を共有する。

ここMJWWTは毎日がクリスマス。

つまり世界中が平和で、家族や親しい人々とともに愛と祈りに満ち溢れた日が毎日でありますように。

MJはクリスマスデイのように世界中が争いを休戦し、環境破壊が止まり、

家族や親しい人々に囲まれ、あるいは神に祈る静かで愛に満ち溢れる日が毎日続き、

世界中で平和を共有できることを望んでいた。



## 最後に

1992年12月25日

一人の日本人アーティストとMJの出会いはその日から10日間、まるで神からのクリスマスプレゼントのごとく奇跡的なそして濃厚な二人きりの時間が与えられた。

音楽を愛する者同士打ち解けるのに時間はかからなかった。

「僕は君と会うまでの半年間。MJWWTという世界の貧しい子供たちを解放するアミューズメント施設を考えて来た。この頭にあるその空間を10日間で描きあげて欲しいんだ。」

と言って、MJWWTという空間を理解するまで、毎夜朝方までMJは話し続けました。

そしてクリスマスイブの夜、僕はMJに自身でそのコンセプトを絵に描いてくれないとわからないとまるで古くからの親友にいうようにぶっきらぼうにこたえた。

描きながらMJは各部分に対して詳細な説明を繰り返した。

そして一週間後数枚のスケッチが描き上がり、MJに渡した。

MJWWTの真の意味は未だに不明。

しかし、今は亡きMJとの奇跡の10日間を思い出すと、Wonder World Toysをオモチャに見立てた地球として考えたのではないだろうか。

環境破壊で苦しむ地球とヒト。多くの紛争で苦しむ地球とヒト。その一番の被害者は子供たち。その子供たちのことを考えたオモチャの存在。

MJはこのアミューズメント空間を通して、彼の望む<地球>を壮大なスケールで表現したかったような気がする。

MJの超人的な感受性とクリエイティブ力。それは音楽並びに映像の世界におびただしい名作を残している。

その中の一つ、This is it.の最後のシーンでMJ が数分間のメッセージを残している。それは地球に対する畏怖と敬愛の念。

そして

「あと5年という時間しか残されていない」と意味不明の言葉で締めくくられている。

それは何を意味するか？

MJは人類と地球のあり方とその未来をMJWWTを通して世界に伝えたかったのではないだろうか？

彼MJが最もいいかったのは、われわれ人類が住む最も美しい地球を、もっと愛して、世界紛争や環境破壊をやめて。

そして地球に住む人類同士で差別や争いはなくして。子供は未来を担う地球の宝物なのだから。

MJはそんな思いをMJWWTに秘めて、世界の紛争や環境破壊をなくすために全身全霊でアーティスト活動を通じてメッセージを送り続けていた。



MJとKENJI。1993年1月1日午前3時ころの撮影。前夜12月31日は「カウントダウン」の最終ライブが東京ドームが開催された。この日、大晦日はイラストを仕上げMJに手渡す日だった。会場では大勢のファンがカウントダウンの大合唱だったが、新年を迎える数十分前に会場を後にした。お決まりのパジャマスタイルに着替えたMJに仕上がったイラストを手渡すと、眼には涙がにじんでいた。それから、3時間後成田空港へと帰国の途についた。  
※MJの膝の上にはKENJI作品1がのっている。

# KENJI KOGA プロフィール



## [Artist Profile]

KENJI KOGA / 長崎県生まれ。東京在住。'74N.Y.渡米。アーティスト活動開始。代表作ともいえる切手のコラージュ「平和の象徴」が、ニューヨーク国連本部のパーマナント・コレクションに日本人として初めて選出。'93年5月にニューヨーク国連本部にて贈呈式が行われる。また、'94年国連で開催された“自然災害軽減世界会議”の記念切手案が国連切手デザイン委員会の決定を経て、'94年に選出される。KENJI KOGAのオリジナル絵画3点およびデザインを手掛けたその作品は、'95年、ニューヨーク、ジュネーブ、ウィーンのそれぞれの国連郵便管理局より国連記念切手として発行された。アーティスト(クリエイティブディレクション・プロダクトデザイン)。

## 1974

ニューヨーク渡米。アートワーク活動開始。

## 1982

デザインオフィス株式会社C.Y.A設立。

## 1992

NGO団体(主に国連難民高等弁務官事務所への支援)アースアクセス委員会(Earth Access Committee)ニューヨーク本部設立。同年8月日本支部設立。現在に至る。

## 1993

ニューヨーク国連本部にて原画2点、シルクスクリーン6点の永久保存セレモニー開催。

## 1994

国連記念切手「国際防災の10年」の世界コンペ提出、ニューヨーク国連本部デザイン査問委員会の決定を経て選出される。

## 1995

ニューヨークメットライフ(旧パンナムビル)保険ギャラリースペースにて個展開催。

「自然災害軽減の10年」の記念切手、ニューヨーク国連本部、ジュネーブ国連支部、ウィーン国連支部から発行。

「国連認定の難民救済募金箱設置」スタート。

「阪神・淡路大震災被災者に対するベネフィットCD」作成。ジャズ界よりハービー・ハンコック、キース・ジャレット、バット・メセニー、チャールズ・ロイド、坂本龍一他海外アーティスト多数参加。同年、阪神・淡路大震災被災者、高校生・大学生6,000名のためのフリーチャリティコンサートを企画・開催。ハービー・ハンコック・トリオ、小曾根 真、菊池雅章他多数出演。

## 1996

伊勢丹デパートにてKENJI KOGA ART WORKS展開催。

## 1997

銀座ミキモトアートギャラリーにてKENJI KOGA ART WORKS展開催。

## 1998

第35代アメリカ合衆国大統領ジョン・F・ケネディの弟、ロバート・ケネディ司法長官の次男ロバート・ケネディJr.(リバーキーバーズ財団を率いて河川汚染問題を主軸にした環境汚染を追求するアメリカ屈指の人物)を日本へ招聘。

## 1999

メキシコ「サンイグナシオ・ラグーン(環礁)」の野生動物・植物(世界遺産候補地)が絶滅の恐れがあるためロバート・ケネディJr.並びに世界環境保護協会(アメリカ最大のNGO)など世界有数の学者が集まる。

## 2000

「ニュース国連世界水会議」に出席。

「国連難民高等弁務官事務所・創立50周年記念コンサート」を開催。ニューヨークより「アメリカ公民権運動家」「ジャズ界のゴッド」マックス・ローチを招聘。

## 2001

天台宗総本山・比叡山延暦寺にて黒沢久雄氏、小林大僧正氏等とのパネル・コラボレーション。

## 2003

「KENJI KOGA ANIMAL ARTBAG」ブランド、ニューヨークデビュー。

## 2009

「ART of ANGEL WOOD / KENJI KOGA ART WOOD」発表。